

奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校
創立100周年記念式典
中 村 昭 翔楓会(同窓会)会長あいさつ要旨

紅葉が色づきはじめ、日増しに加わる冷気に秋の深まりを感じる季節となりました。このたび、奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校が創立100周年を迎えられ、記念式典を挙げるに当たり、同窓会「翔楓会」を代表して、ご挨拶を申し上げます。

奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校が、大正・昭和・平成・令和の4時代を経て、この度めでたくも創立100周年を迎えることができましたことは、これもひとえに学校関係者の皆様の献身的なご協力と、奈良県及び奈良県教育委員会を始め多くの皆様方のご支援の賜物であると深く感謝しております。

さて、本校は大正10年に奈良市船橋町船陵の地に開校した奈良商業学校に始まります。その後、時代の変化とともに幾度の変遷を経て令和3年度からは奈良商工高等学校として新たなスタートを切ることとなりました。これまでに幾多の変化を続けてきたことは、常に時代の流れを読み、奈良県の産業界を支える人材を輩出するという大きな使命をもった学校であったからだと思います。

私が本校に入学した昭和30年代は高度経済成長期の始まりで、物にあふれた現在のような豊かさはなかったものの、社会が大きく変貌する時代でありました。人々は未来に希望を抱き、頑張れば夢が実現できると思えた時代でありました。私も期待に胸を膨らませ、努力すれば明るい未来を勝ち取れると信じて日々過ごしていたように思います。

結果、かつての日本の経済は「東洋の奇跡」とも呼ばれる急成長を遂げました。しかし、その後の日本経済は、オイルショック、バブル経済の崩壊、リーマンショックなど様々な困難が訪れることとなりました。社会全体として求人が激減するなど、苦難が強られる時代もありましたが、学校関係者の皆さんの努力により、危機を乗り越え、現在までゆるぎなく教育活動を継続されてこられました。

これからの時代、さらなるグローバル化の進展や技術革新により、大きく社会の構造が変化していく予測困難な時代になるだろうと言われております。このような時代を見定め、生き抜いていくには、時代の変化に向き合い、目の前の課題を他者と協働して解決していく力が必要です。そのためにも偏ったものの見方をすることなく、様々な観点で物事を見極める力が求められます。本校は100年の長い歴史の中で、幾度かの再編や統合を経て、平成19年に再び工業科と商業科を有する奈良朱雀高等学校となり、100周年を迎えた令和3年度には奈良商工高等学校として新たなスタートを切りました。ものづくりとビジネスの両方の

観点を兼ね備えた本校こそ、これからの時代をけん引する人材育成に重要な役割を担った学校であると確信しております。

100年の歴史を礎に次の時代を切り開いていく学校として、本校が今後も邁進されるよう祈念しております。

最後になりましたが、歴代の校長先生をはじめ、教職員、育友会、同窓会等の関係の皆様方の御尽力、並びに奈良県・奈良県教育委員会及び地域の皆様方の温かい御支援、そして生徒の皆さんのたゆまぬ努力に深く敬意を表するとともに、100周年の標語に「築け！新たな伝統 輝く未来へ」とありますように、この奈良朱雀・奈良商工高等学校が素晴らしい伝統を継承しながら、益々発展されますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。